



あつたきすきになつたよ

町のシンボル「金山杉」のよつに、すくすく、のびのびと育つてほつとほつと願いをこめて、今年度も教育・子育ての取り組みを紹介しつづけます。今月は小学校の2校目。有屋小学校からです。

一、はじめに

今年度は、四名の新入生を迎えて、三十九名の児童と九名の教職員でスタートしました。

元気で明るい子どもたち、意欲のある職員、保護者の方も、地域の方々も、教育に寄せる関心が高く、いろいろな面でも協力的です。

二、めざす子ども像

本校の校訓「前向き姿勢に学ばむ」(求め学び続けること)「休まず止めず学ばむ」(自立に向かうたくましさ)の精神を教育の根本とし、知徳体が調和し「いのち輝く子ども」の育成をめざしています。

- ①考える子ども (確かな学力「知」)
- ②思いやる子ども (豊かな感性「徳」)
- ③元気な子ども (たくましい心と体「体」)

その結果、変化の時代を生き抜く資質や能力が身につくと考えています。

三、地域の方々と連携した教育活動

「有屋はひとつ」を合言葉に、地域の伝統を生かしながら、そして地域の方々と協力しながら、子どもたちを育てています。

① 地域の方々との有屋地域大運動会



児童による競技だけでなく、親子種目(二人三脚、親子三代リレー)、地区対抗競技(むかでリレー、綱引き、年代順別リレー)を取り入れ、保護者の方だけでなく、高校生や二十代の若者も参加しています。また、大会役員に中学生も加わって、地域ぐるみで運動会を開催しており、今年度も大いに盛り上がりしました。

② おじいさん、おばあさんとの交流

年二回(六月と九月)、地域内にある二つの老人クラブ(「龍馬粋活きクラブ」「神室老人クラブ」)のおじいさんおばあさん方が、学校の周りの草取り作業を行ってくれます。子どもたちも中間休



みを利用して、一緒に行います。また、休憩のときには、二年生の子もたちがお茶を配りながら、地域のお年寄りの方とお話しています。

③ 伝統ある「ふれ太鼓」校内相撲大会

本校には、前日に地域内をまわる「ふれ太鼓」及び「校内相撲大会」があります。「ふれ太鼓」は、行司、呼び出し、東西役力士が各地区を回り、地域の方々から横綱土俵入りや弓取りを見ていただき、地域全体を盛り上げています。当日は、たくさんの地域の方からきていただき、立会いのぶつかる音が聞こえるほど、一番一番熱い取り組みが見られました。

また、本校ならではの「手作りの化粧まわし」は、下学年はかわいらしく、上学年は勇壮に仕上がりに、今年も見ている方々から大きな拍手をいただきました。

四、おわりに

活動の一部を紹介しましたが、今後はクラブ活動における「有屋少年番楽」の指導が始まります。地域の方々は、「子どもは、有屋の宝物」という思いで、学校にすく協力してください。学校だけでなく、地域全体で子どもたちを育てていけるように、これから地域に「開かれた学校」をめざしていきます。

(有屋小学校 校長 井上 博人)



『あつたきすきになつたよ』

(薫くみこ作/教育画劇)

私の席ははじつこで、後ろの席にしつこさんがいる。

私がブランコに座つてやったら、しつこさんが無理やり座ってきた。

「痛いよー」私が泣いたら、しつこさんも泣いた。

「しつこのしつこたれ うんこたれ」

悪口が体中で暴れまわった。

体育で転んだ。保健室にはしつこさんがいた。「同じ所をけがして仲良しね」保健の先生が笑った。

べーっだー!心の中で言ったら、しつこさんの目がつりあがった。

私はどきっとした。

まことのバカが牛乳を入れて、金魚を死なせた。まことが謝つたけど「ごめんですめば警察はいらないよ」しつこさんは言った。私はなるほどね、と関心した。

こんな小さな事件を乗り越えるうちに、なんとなく嫌いな「しつこさん」が少しづつ仲良くなりました。また後半は2人の関係がどんどん深くなっていく様子が描かれています。

小さなイジメやケンカは子供の周りにたくさんあります。でも、仲良しのきつかけもたくさんあると思わ

される一冊です。

その結果、変化の時代を生き抜く資質や能力が身につくと考えています。